宮崎縣の蜘蛛目錄

松原茂雄（白甲鏞）

朝鮮京城　培材中學校

予は宮崎高等農林學校在學中（1938—1941）宮崎縣の蜘蛛を採集する機會に恵まれたから此處に其目錄を掲げて同學諸士の御參考に供したいと思ふ。宮崎縣の蜘蛛は既に王寺氏（1936, 1937）に依つて 25 科 130 種が報告され．又植村氏（1937, 1939）及び白（1937）の斷片的報文があるが予の採品中には此等の報告に出てゐないものも數多あるので敢て禿筆を呵する次第である。尚未だ種名判明せざるもの多數あり，これは他日種名判明し次第追つて發表する心算である。在學中蜘蛛採集に種々御指導と御鞭撻を賜はりたる北尾淳一郎先生並びに中島茂先生に厚く御禮申上げる次第である。

目錄中○印のものは王寺氏に依り，×印のものは植村氏に依り既に報告されたものである。

Order　Araneina　眞正蜘蛛目

Subord.　Liphistiomorphae　古疣亞目

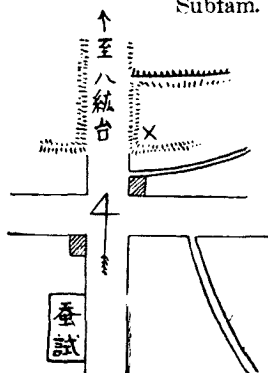
Fam.　Liphistiidae　キムラグモ科

Subfam.　Liphistiinae　キムラグモ亞科

1° *Heptathela kimurai* Kishida　キムラグモ

後出のキシノウエトタテグモと共に蠶業試驗場より八紘臺に通ずる道路の東側の崖に多數棲息す(略圖參照)。斯かる群棲地は珍しいから此の崖が心なき人々によつて荒されない樣に保護策を講じたいものである。特に八紘の基柱が出來て以來此の道路は交通が繁くなり崖が荒される危險性が增して來た。

宮崎・榎原神社・清武・法華岳〜釋迦岳

Subord.　Mygalomorphae　原疣亞目

Fam. Ctenizidae トタテグモ科

Subfam. Cteniziuae トタテグモ亞科

2°× *Pachylomerus fragaria* Dönitz ツクシトタテグモ

植村氏（1937）は本種の造巣場所として岩上・石垣上・地中・杉・柿・ザクロ・カシ・クロガネモチ・槇・樟等をあげ「九州產のものは全て杉又は松の樹上に生活するものばかりである（王寺氏の通信に依る）」と報ぜられて居るが予の觀察（於九州）せる造巣場所は杉・柿・槇・梅・岩上等である。景淸廟から南に通ずる道路の西側に數本の梅の木があり，此處で多數採集することが出來た。又志布志の枇榔島（鹿兒島縣）でも極めて多數採集することが出來たが此處のものは何れも苔蒸した岩石上に造巣して居た。　宮崎

3° *Kishinouyeus typicus* Kishida キシノウエトタテグモ　宮崎

Fam. Atypidae ヂグモ科

Subfam. Atypinae ヂグモ亞科

4° *Atypus karschi* Dönitz ヂグモ　宮崎

Subord. Arachnomorphae 新疣亞目

Fam. Urocteidae ヒラタグモ科

Subfam. Urocteinae ヒラタグモ亞科

5° *Uroctea compactilis* Koch ヒラタグモ　宮崎

Fam. Agelenidae クサグモ科

Subfam. Ageleninae クサグモ亞科

6° *Agelena opulenta* (L. Koch) コクサグモ　鵜戸神宮

Fam. Pisauridae キシタグモ科

Subfam. Thaumasiinae ハシリグモ亞科

7 *Dolomedes fimbriatoides* Bös. et Strand スヂチヤハシリグモ　宮崎

Fam. Lycosidae ドクグモ科

Subfam. Lycosinae ドクグモ亞科

8 *Lycosa subamylacea* (Bös. et Strand) クロコドクグモ　宮崎

9° *L. coelestis* L. Koch ハラグロドクグモ　宮崎

10° *L. T-insignata* Bös. et Strand ウヅキドクグモ　一ツ葉

11° *L. pseudoannulata* (Bös. et Strand) キクヅキドクグモ　宮崎

12 *L. doenitzi* Bös. et Strand デーニッツドクグモ　宮崎

XII. 5. 1940 に下北方村の貯水池の畔で水邊に棲む蜘蛛を採集してゐた際水に半分程つかつてゐた小石をめくるとその下から本種があらはれたが直ちに水中に潛り水深約 1 cm. の水底の小石に歩脚でだきついて靜止して居るのを觀察することが出來た。水中にをるときは體表の空氣層のため體は銀白色に光つて實に見事なものであつた。P. M. 4.30 に潛水して P. M. 6.33 太陽が沒して觀察が續行出來なくなつたので標本にするため採るまで實に 2 時間 30 分の長きにわたつて一度も水面に上らず水底で頑張つてゐた。採つて來たものを底に小石を入れたコツプに水を盛りその中に放しておいたが一向水中に潛らなかつた。翌日の午後見ると溺死してゐた。恐らく小さいコツプの中なので這上つて體を乾すことが出來なかつた爲ではないかと考へられる。

13° *Pirata clercki* (Bös. et Strand) クラークカイゾクドクグモ　宮崎

Fam. Oxyopidae ササグモ科

Subfam. Oxyopinae ササグモ亞科

14° *Oxyopes sertatus* L. Koch ササグモ　宮崎・一ツ葉

Fam. Pholcidae イウレイグモ科

Subfam. Pholcinae イウレイグモ亞科

15 *Pholcus crypticolens* Bös. et Strand イウレイグモ　青島

Fam. Theridiidae ヒメグモ科

Subfam. Asageninae ナキヒメグモ亞科

16° *Lithyphantes dubius* Dönitz et Strand ヌサグモ fig. 1, 2　宮崎・法華岳～釋迦岳

♀ 頭部は著しく膨隆し頸溝及び放射溝明瞭。中窩は橫にえぐられる。8 眼 2 列にならび前中眼最大にして前中眼間は後中眼間より明かに大なり。兩側眼は明かにはなれてをる。上顎に外裸を具ふ。背甲・上顎・胸板・下唇・下顎は共に赤黑色。下顎毛束は灰黄色。觸肢及歩脚は褐色にして第 1・第 2 歩脚の腿節の先端 2/3 及脛節先端は暗黑色なり。但し個體により此の暗黑色環を缺くものあり。第 3・第 4 歩脚の各節末端及蹠節基部は暗色なり。腹部は上面黑く 3 列にならぶ黄白色乃至黄色の大斑點を有し兩側列のものは前後の斑が接着せる個體あり。腹部側面及下面も同樣に黑色なれど胃外域は汚黄色．性域は黑色を呈す。胃外溝より絲疣に及ぶ 1 對の曲玉狀斑は白黄色。絲疣を兩側よりかこむ 1 對のフ字狀黄白色斑あり。

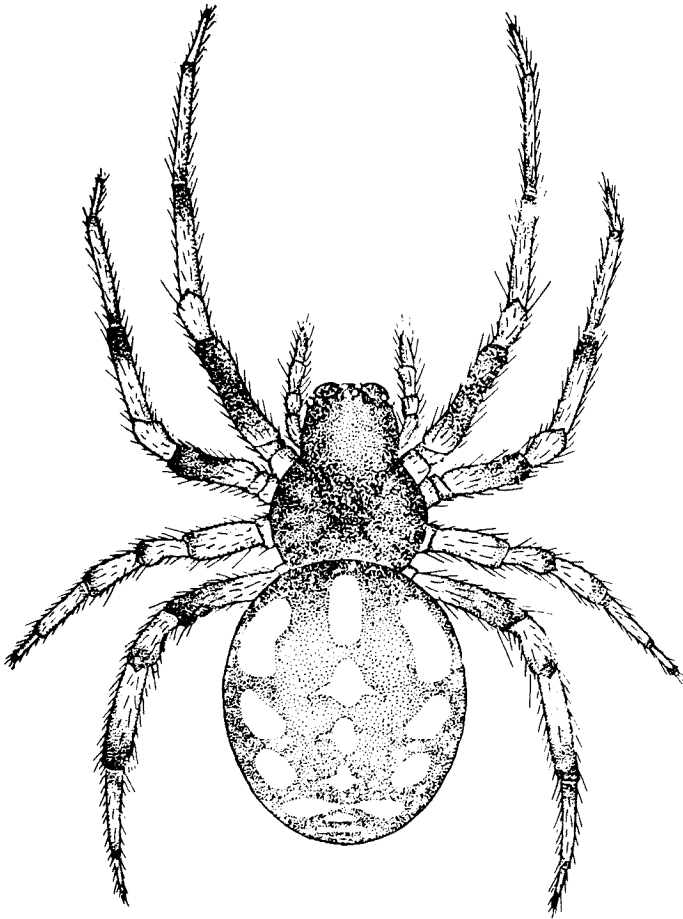



fig 1

Lithyphantes dubius Bös. et Strand ヌサグモ ♀ (原圖)

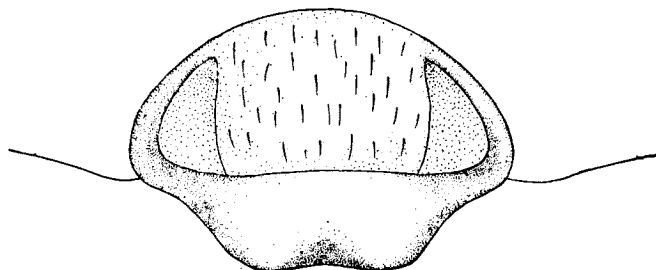



fig. 2

Lithyphantes dubius Bös. et Strand ヌサグモ Epigyne (原圖)

測定（單位 m. m.）

No.	性	總長	全長	背甲		腹部		歩脚			
				長	幅	長	幅	I	II	III	IV
1	♀	7.0	7.0	3.6	2.5	5.0	4.5	10.5	9.0	5.5	8.0
2	♀	6.0	6.0	—	2.0	4.0	4.0	8.5	7.5	4.5	7.0
3	♀	6.5	6.5	—	2.5	4.5	3.5	9.0	8.0	5.0	7.5

Subfam. Argyrodinae コブヒメグモ亞科

17° *Ariamnes cylindrogaster* Simon ヲナガグモ 宮崎・青島・双石山

fig. 3

卵嚢は A の部分 (fig. 3. b. A) を上にして巣につりさげてある。全體黑ずんだ狐色で所々黑色の强い斑點があり B の部分 (fig. 3. b. B) は淡色である。卵嚢の形狀及び大きさは fig. 3. a. b. を參照されたい。VII. 9. 1939 に採集した卵嚢を切り開いて見ると中に小さい幼生（不幸にして體長測定せず）が多數入つてゐたが此等幼生の腹部は fig. 3. C に示す樣な形をして成體の樣に細長くはなかつた。卽本種の腹部は脫皮を重ねることによつて所謂尾の部分が急速に伸びるものであらう。

18° *Argyrodes bonadea* (Karsch) シロガネヰソウロウグモ 一ツ葉

Subfam. Theridiinae ヒメグモ亞科

19° *Theridion tepidariorum* C. L. Koch オホヒメグモ　宮崎・一ツ葉・青島・法華岳～釋迦岳・榎原神社

20 *Theridion sterninotatum* Bös. et Strand ナガレボシヒメグモ　青島

Fam. Linyphiidae サラグモ科

21 *Linyphia yunohamensis* Bös. et Strand ユノハマサラグモ　双石山・法華岳～釋迦岳

22 *Oedothorax dentatus* (Wilder) キタチアカムネグモ　宮崎

Fam. Uloboridae ウヅグモ科

23 *Uloborus dubius* Bös. et Strand コウヅグモ　青島・宮崎

24 *U. varians* Bös. et Strand オウウヅグモ　法華岳～釋迦岳

25 *Miagrammopes orientalis* Bös. et Strand マネキグモ　宮崎・法華岳～釋迦岳

Fam. Argiopidae コガネグモ科

26 *Leucauge subblanda* Bös. et Strand コシロガネグモ　宮崎・青島・一ツ葉・法華岳～釋迦岳

27° *L. blanda* (L. Koch) シロガネグモ　宮崎・青島・法華岳～釋迦岳・双石山

28° *Meta doenitzii* Bös. et Strand ドヨウグモ　宮崎

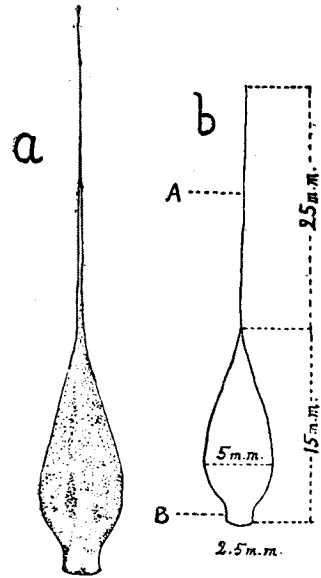



fig. 3
Ariamnes cylindrogaster Simon
ヲナガグモ
a, b. 卵嚢　c. 幼生の腹部（原圖）

29 *M. kompirensis* Bös. et Strand　双石山

30° *Cyclosa bifurcata* Kishida キヌアミゴミグモ（改稱）　宮崎　fig. 4, 5

キヌアミグモなる和名が用ひられて居る様だがこれはむしろキヌアミゴミグモと呼ぶ方が所屬がはつきりして好都合の様に思はれるから斯様に改稱するこ

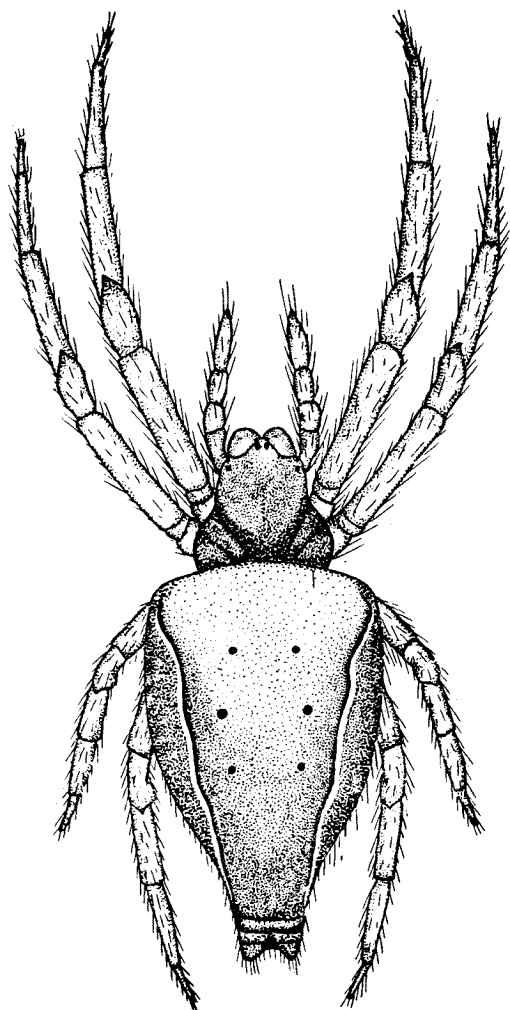



fig 4

Cyclosa bifurcata Kishida キヌアミゴミグモ（改稱）♀（原圖）

を提唱する。本種は枳や蜜柑などの枝間に好んで造巣する。網は水平丸網で網目が非常に細かく美しい。

♀ 背甲及上顎は褐色。牙は赤黒色。下顎・下唇及胸板は暗色を帯びたる褐色にして下唇の先端及下顎の内縁は黄白色なり。頸溝は明瞭なれど放射溝及中窩は判然せず。8眼は2列にならび兩眼列共稍々後曲す。上顎に外裸を具ふ。背甲には褐色細毛を胸板には黑色剛毛と白色毛とを粗生す。歩脚は何れも一様に褐色なり。腹部は長三角形にして上面淡灰色にして縱走する白色の波狀緣紋を有し，其の兩側は稍々暗色なり。腹部末端は二分し且數列の横皺を有す。腹部下面は暗灰色に褐色の點斑を散布し胃外溝兩端近くより絲疣の後緣をめぐるU字狀の判然せざる褐色紋あり。

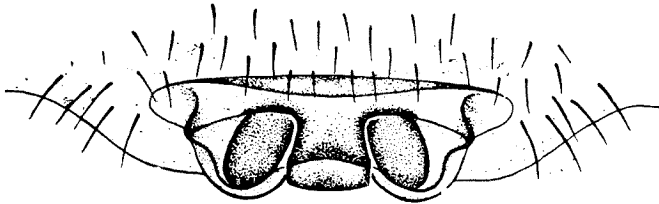



fig. 5

Cyclosa bifurcata Kishida キヌアミゴミグモ（改稱）Epigyne（原圖）

測定（單位 m. m.）

No.	性	總長	全長	背甲 長	背甲 幅	腹部 長	腹部 幅	步脚 I	步脚 II	步脚 III	步脚 IV
1	♀	8.0	8.0	—	—	6.5	4.5	9.2	8.2	5.5	8.0
2	♀	10.0	9.7	—	2.5	7.5	4.5	9.5	8.5	6.0	8.0
3	♀	8.5	8.5	—	3.0	6.0	4.0	10.0	9.0	6.5	7.5

31° *Cyclosa insulana* (Costa) ミツデゴミグモ 法華岳～釋迦岳

湯原氏はシマゴミグモと呼べり。

32° *C. octo-tuberculata* Karsch ゴミグモ 宮崎・法華岳～釋迦岳

33 *C. sedeculata* Karsch ヨツデゴミグモ 宮崎・法華岳～釋迦岳

34 *Araneus opima* (L. Koch) ヤホシオニグモ 宮崎
35 *A. semilunaris* (Karsch) マルヅメオニグモ 宮崎
36× *A. mongolicus* Simon コケオニグモ 宮崎 (V. 12. 1939)—幼生なり。
37° *A. fuscocolorata* Bös. et Strand ヤミイロオニグモ 一ツ葉・双石山
38 *A. subpullata* Bös. et Strand ヘリジロオニグモ 宮崎・一ツ葉
39° *A. pentagrammicus* (Karsch) アヲオニグモ 宮崎・法華岳〜釋迦岳
40° *A. scyllus* (Karsch) ヤマシロオニグモ 宮崎・青島
41° *A. ventricosus* (L. Koch) オニグモ 宮崎
42° *Coganargiope amoena* (L. Koch) コガネグモ 宮崎・一ツ葉・青島
43° *C. minuta* (Karsch) コガタコガネグモ 宮崎
44 *C. aethera* (Walckenaer) チウガタコガネグモ 宮崎
45° *Miranda bruennichii* (Scopoli) ナガコガネグモ
46° *Nephila clavata* L. Koch ヂヨロウグモ 宮崎・鵜戸神宮

Fam. Thomisidae カニグモ科

Subfam. Misumeninae

47 *Xysticus ephippiatus* Simon ヤミイロカニグモ 法華岳〜釋迦岳・双石山
48° *Misumena tricuspidata* (Fabricius) ハナグモ 宮崎
49° *Oxytate striatipes* L. Koch ワカバグモ 双石山

Subfam. Philodrominae

50 *Tibellus tenellus* (L. Koch) シヤコグモ 法華岳〜釋迦岳
51 *Philodromus aureolus japonicola* Bös. et Strand アサヒエビグモ 宮崎

Fam. Clubionidae フクログモ科

Subfam. Clubioninae フクログモ亞科

52 *Chiracanthium gratiosum* Saito サチコマチグモ 一ツ葉 (VI. 26. 1938)

本種は齋藤博士が福島縣 Konahama (小名濱) 産標本により新種として發表されたものである。*

53 *Clubiona japonicola* Bös. et Strand ウスキフクログモ 宮崎
54 *C. lena* Bös. et Strand 法華岳〜釋迦岳

---

* Saito Ho-on Kai Mus. Research Bull. No. 18, p. 28 ; 1939

Fam. Tetragnathidae アシナガグモ科

55 *Tetragnatha lea* Bös. et Strand アヅマアシナガグモ 宮崎

56° *T. japonica* Bös. et Strand ヤサガタアシナガグモ 宮崎・法華岳～釋迦岳

57° *T. praedonia* L. Koch アシナガグモ 宮崎・双石山

Fam. Ctenidae シボグモ科

58° *Anahita fauna* Karsch シボグモ 青島

Fam. Salticidae ハヘトリグモ科

59° *Evarcha albaria* (L. Koch) マミジロハヘトリグモ 宮崎・法華岳～釋迦岳・双石山

60 *Carrhotus detritus* Bös. et Strand クロチヤハヘトリグモ 宮崎・双石山

61° *Plexippus paykulli* (Audouin) チヤスヂハヘトリグモ 宮崎・青島・双石山

62° *P. crassipes* Karsch 双石山

63° *Myramarachne innermichelis* Bös. et Strand クロアリグモ 宮崎・青島

64° *Icius magister* Karsch オスグロハネグモ 宮崎・一ツ葉

65° *I. elongàtus* Karsch ヤハズハヘトリグモ 宮崎

66° *Aelurillus dimorphus* Dön. et Strand クロスヂハヘトリグモ 宮崎

67 *Menemerus hymeshimensis* Dös. et Strand イソハヘトリグモ 青島

68° *Marpissa vittata* Karsch アヲオビハヘトリグモ 宮崎 fig. 6

69° *Hyllus lamperti* Bös. et Strand ラムペルトハヘトリグモ 宮崎・法華岳～釋迦岳・双石山

Fam. Sparassidae アシダカグモ科

70° *Heteropoda venatoria* (Linnaeus) アシダカグモ 双石山

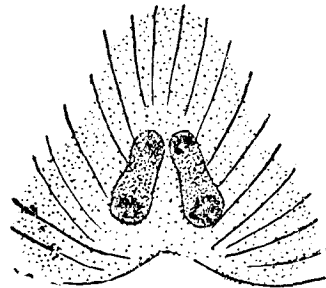



fig. 6
Marpissa vittata Karsch アヲオビハヘトリグモ ♀ Epigyne (原圖)

宮崎縣產蜘蛛關係主要文獻

王寺幸寛 —— 宮崎地方蜘蛛目錄 (1); Acta Arachnol., Vol. I, No. 4, p. 142—144; 1936

———— —— 宮崎地方蜘蛛目錄 (2); Ibid. Vol. II, No. 1, p. 22—26; 1937

植村利夫 —— 海濱に棲むイソハヘトリグモ; Ibid. Vol. II, No. 3, p. 108—109; 1937

———— —— コケオニグモ九州に產す; Ibid. Vol. IV, No. I, p. 27; 1939

———— —— キノボリトタテグモの分布 Ibid Vol. II, No. 3, p. 106—107; 1937

白甲鏞 —— 一ツ葉砂丘地帶の蜘蛛; 宮崎リンネ會報, No. 11, p. 57—59; 1938

サスマタアゴザトウムシ *Ischyropsalis abei* Sato et Suzuki の生長に伴ふ形態の變化

三好保德

愛媛縣立松山高等女學校

昭和16年6月7日以來, 棲息地に於ける盲蛛の觀察を行ふを目的として松山市の東南方, 皿ヶ嶺 (1271 m) 風穴附近の杉林をしばしば訪ねた。今やその度數も30回に及ばんとし本體が多少明らかになつた種類もあるので, その中の 1 種 *Ischyropsalis abei* の生長に伴ふ形態の變化について述べることにする。尙本種の和名をサスマタアゴザトウムシとしたい。これは成體鋏角 (上顎) 第 1 節の形態が德川時代, 强盜, 狼藉者に對して用ひた攻防の重要器具サスマタ (刺股 長脚鑽) に彷彿たるものがあり, 一方 *Ischyropsalis abei* にとつて上顎は又重要な攻防の武器であるところから, かつて「四不像」第□號誌上に筆者がはじめてこの和名を公にしたのであつた。

尙この研究に對して種々御教示を賜はりたる廣島文理科大學佐藤井岐雄博士, 又便宜を與へられたる松山高等學校大槻登志夫博士に對し厚く感謝の意を表す。

I 幼形の發見

昭和 17 年5月 10 日に至り幾度も求めて得られなかつたサスマタアゴザトウ